

# 【徳と力と富の必然・・・】

「3月」の声を聞くと、高校・大学入試の時期、そして年度末だなあと思いに耽ってしまします。『昨日を悔いず・明日を恐れず・今日を楽しむ』。「今」という「今」を充実させて、なんとなく明日が楽しみになるような、そんな時を一刻、一刻大切にしたいものです。

さて、中国に『孟子』という儒家に属する思想家がおりました。彼は前372〜前289の84年間を、人は生まれながらにして道徳性を具え、善を直覚できるとして性善説をとまえ、その立場に立って王道政治を説き示された方でありました。

その『孟子』の言葉の中に「力を以て人を服する者は、心服するにあらざるなり」という、私の最も好きな言葉の1つがあります。この言葉の意とするところは、「力づくで人を服従させても、服従させられた者は心から服従しているわけではない。ただ反抗する力が足りないから心なら

ずも服従しているのである」との意であります。これではもし後に力がつけば、反抗することになるでしょう。

これとは反対に、徳によって人を服従させると、人々は心の底から喜んで服従します。

また孟子は、「力によって服従させられた人達は派手に振るまい興じているが、徳によつて従っている人々はそのびのびとして自ら満足している。」

また、力によつて服従させた人間の間には、人気取りのために目立った振る舞いをするが、その場限りで永續きはしない。これに対して、徳による者は小細工などをしなくても、その恩恵が自然に人々に行き渡り、無理がないので永續きする」と述べています。

近世の英雄などといわれた毛沢東も、「人を服させるには説得するより他なく、威圧的に屈服させてはならない。威圧すれば結局は押しつぶされず、ということになるのが常である」と述べています。

先日、ある工場主を務めている友人と話し合ったときのことです。

その工場は数10人の工員を部下として経営していましたが、経営内容はあまり上等とは言えないものでした。

「この頃の工員は口先は一人前だが仕事は半人前。何とか叩き直そうと思つて、軍隊式に厳しく指導していたのです。軍隊式とは、片っぱしからどなりつけたり、時には鉄拳さえ見舞つている有り様でした」と得々と言つていたので、私はこういう話をしました。

「今は50人程度の部下だからそういう教育もできるけど、10倍の500人の社員になったらどうしますか、そして更に大きな大工場になった時はマイクでも使つてどなつたり、鉄拳制裁を加えますか？つて。できないでしょう。そんな事をしていたら、こちらの体の方が打ちのめされますよ（笑）。それよりも社長は社員に対して無言で、50人どころか5000人の社員を喜んで働かせることを考えるべきではないですか？」と。

昔から名君、賢主というものは「無為にして化した」といわれています。つまり何もしないで人々を感化し、従わせたということ

す。まさに理想ですね。うーん素晴らしい。

孟子に続いて『荀子』を紹介します。荀子は戦国時代の思想家で、孟子の性善説を批判して性悪説をとえられた方です。性悪説とは人間の天性は悪だが、後天的努力、つまり人為を積み重ねることによつて矯正できるとして、礼・義による人間規制を重くみた方でありました。

この『荀子』の書に他国を併合する3つの方法を上げています。

1つは徳による併合。

2つに力による併合。

3に富による併合であります。『荀子』の書にはそれぞれ3つの併合の仕方、そしてその併合の結果が詳しく示されておりますが、紙幅の関係上詳細は省かせて頂きます。ここではそれぞれの併合の結果のみご紹介させて頂きます。」

『徳によつて併合すれば王者になる』

『力によつて併合すれば弱くなる』

『富によつて併合すれば貧しくなる』と説かれています。カネノアルウチハ、チャラチャラト、カネガナクナリヤステタ

ガルという歌がありました(笑)。  
林が深ければ多くの鳥が棲みつき、川が広ければ大きな魚も多く集まってくる。

すなわち徳のある人には多くの人が集まってきて離れることはない。権力も振るわず、カネも出さず、人材を集めることができる。この様に考えると、徳は得にも通じている事も理解できるのではないのでしょうか？

今月も迷わず一道を進みましようネ。

合掌 副住職 谷川 寛敬